



【護衛艦隊司令官挨拶】

海将 湯浅 秀樹



第39代護衛艦隊司令官の湯浅です。糟井海将の後任として、本年4月より護衛艦隊司令官として勤務しております。私自身の横須賀での勤務は、前々配置の掃海隊群司令以来となりますが、今回もまた艦艇部隊の指揮官として勤務できることを心から感謝するとともに、その責任を重く感じているところです。横須賀水交會の皆様には、常日頃から艦艇部隊に対して様々

なご支援、ご高配をいただき、本当に感謝しております。護衛艦隊を代表し厚く御礼申し上げます。

さて、私は今回の護衛艦隊司令官着任に際し、「精強・即応」「柔軟・進化」を勤務方針に掲げました。

「精強・即応」は、海上自衛隊が創設以来、連綿と受け継いできた目標であり、現在の海上幕僚長及び自衛艦隊司令官の勤務・指導方針でもあります。現在の我が国を取り巻く極めて厳しい安全保障環境のほか、警戒監視、練成訓練、海賊対処行動をはじめとする実任務や様々な二国間及び多国間での共同訓練等、護衛艦隊が実施している活動の現状を勘案しますと、今まさに護衛艦隊に求められているのがこの「精強・即応」であ

発行 令和元年11月11日
編集 横須賀水交會事務局

と強く感じているところです。

一方で、今後更に厳しさが予想される安全保障環境に加え、新たな領域での戦い、任務の多様化、装備武器の高度化、更には少子高齢化に伴う厳しい人的環境下においても、引き続き国民の負託にこたえられる護衛艦隊であり続けるためには、護衛艦隊自身が常に「進化」する組織でなければならぬとも感じしております。そして、そのためには、常識の殻を打ち破れる柔軟な発想と変化に適應して自身や組織全体を変えていける柔軟性が必須であるとの確信から、「柔軟・進化」をもう一つの勤務方針に掲げました。

以上の方針で勤務を始めて約半年、護衛艦隊が抱える様々な問題の解決に向け努めてきましたが、改めて感じるのが人の問題です。現状のみならず将来においても増員が見込めない中で、如何にして「精強・即応」を維

持しつつ、新たな任務や将来に向けた能力向上に取り組むのが重大かつ待ったなしの課題です。
(次頁へ)

横須賀水交會主要行事予定

令和2年3月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ(<http://y-suikoukai.daa.jp/>)で御確認下さい。

1 幹事会

- (1) 期日 12月9日(月)
場所 ホテルハーバー
時間 15:00～17:00
- (2) 懇親会
場所 ホテルハーバー
(京浜急行汐入駅徒歩2分)
時間 17:30～19:30
会費 6千円

2 賀詞交歓会

- (1) 期日 1月18日(土)
- (2) 場所 横須賀商工会議所
- (3) 会費 4千円(男女同額)

3 靖国神社月例参拝

- (1) 期日 2月20日(木)
- (2) 場所 靖国神社等

その意味では、私自身の海幕や掃海部隊での勤務経験、多目的護衛艦(30FFM)の開発経験が多少なりとも役に立つと感じています。今後、私自身の経験に加え、護衛艦隊総員の英知を集めてこの問題に取り組み、しっかりと答えを導きたいと考えています。

最後になりますが、護衛艦隊は、今後も海上防衛の要として、国民に信頼される部隊であり続けます。そのために私は全身全霊で職務にあたる所存です。試練をチャンスと捉え、目標実現に向け積極果敢にチャレンジし、護衛艦隊各隊員の意識改革を図るとともに、護衛艦隊の更なる進化を目指します。どうか引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、横須賀水交会の今後益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

【特別寄稿】

海上自衛隊において女性の活躍はここ最近目覚ましいものがあります。そこで、同様に、男の世界でもある落語会で活躍する「林家つる子」様に御多忙のなか、無理を言って寄稿して頂きました。(編集)

噺家 林家つる子



「今日からあなたは、『林家つる子』です。」半紙に大きく、達筆で書かれた「林家つる子」という文字を、今でも鮮明に覚えている。海老名香葉子おかみさんが、書いて下さったものだ。その日から、林家つる子としての修行が始まった。

落語家の修行。マニュアルはないが、一つだけ共通して言えることがあるとすれば、自分が入門した「師匠」が、全てにな

る、ということだろう。私の師匠は、九代林家正蔵。親ではないが、親以上に、これからの私の人生を預ける人、ということだ。



九代林家正蔵師匠

2010年8月31日、引っ越しを済ませ、師匠の家の隣のマンションの一室に入った。いよいよ落語家としての修行が始まる前日の夜、ほとんど眠れなかったのを今でもよく覚えている。

そもそも私は、家族以外の人と一緒に生活をするという経験は無かった。家族も二人家族で、兄弟もいなかったため、大人数で暮らした経験もない。

そんな自分が、師匠のご家族と、沢山のお弟子さんと、これから生活を共にできるのか。

右も左もわからない状態で迎えた初日は、まず皆さんのお見送りだった。落語家の修行は、まずは「落語」ではない。朝8

時頃に、師匠と一門の兄弟子達が仕事へ向かうのをお見送りした。そこからはおかみさん(ここで言うおかみさんは、師匠の奥様)が付きつきりで、家の用事を色々教えて下さった。庭の掃除や、雑巾がけの仕方、お茶の出し方：少なくとも私にとっては全てが新鮮で、一日ではとても覚えきれなかった。所々でメモをして、無我夢中でその日を過ごした。あつという間に夜になり、仕事から師匠と兄弟子達が帰ってくるのをお出迎えた。この日の夕飯の席で初めて、入門した新しい弟子として、きちんと紹介して頂くことになる。

師匠には、この日の前に何度かお会いしているのだが、兄弟子達に会うのは、この日が本当に初めて。果たして自分は受け入れてもらえるのだろうか。少なくとも、認めてもらえるように頑張らねばならないと、強く思った。

大勢で食べる夕飯。片付けは率先して、下の者がやらなければならぬ。

「お疲れ様でした。今日はもう上りなさい」そう言われたのは既に、夜の23時近くだっただろうか。

とにかく新しいことだらけの一日。

それからはがむしやりに日々を過ごした。先にも述べたが、マニユアルがあるわけではない。なかなか臨機応変に対応できず、毎日のように怒られた。時に出来ない自分が悔しくなり、涙が出てくることもあった。私が、父や母から何も教わっていないように思われたのではないかと、両親にも申し訳ない気持ちになった。

明日を迎えるのが嫌になりそうなのそんな時、必ず思い返すようにしていたことがある。どんなに辛くても、今あるこの時は、二度と経験出来るものではない。ということだ。師匠とおかみさんは、本来なら赤の他人である私たちの面倒を見て、ご飯を食べさせ、私を一人前の落語家にさせるべく、修行をさせて下さっている。この、感謝の気持ち

を忘れずに。そして、応援してくれている両親のために。二度と戻らないこの、貴重な前座時代を無駄にしないように、怒られた翌日も気持ちを新たに「おはようございます」と扉を開けた。

5年2か月の前座修行を終え、晴れて二つ目に昇進した。

二つ目に昇進すると、好きな噺を選んで高座でかけることができる。前座のうちは、師匠からこの噺をこの師匠に習いに行きなさいと言われ、指定された噺を習いに行くことが殆どだった。昇進して好きな噺をできるようになることが、ずっと待ち遠しかった。

古典落語には、本当に魅力的な噺がたくさんある。こうしてこのコラムを書きながらも、やってみたいと思いつく噺はいくつもある。

基本的には、習った師匠に習った噺を聞いていただき、その師匠からお許しが得られれば、高座でかけられるようになるのだが、しかしお客様の前で実際

にやってみると、自分がやってみたいと思う噺ほど、思うように語れない、表現できない、ということも多い。例えば、噺の雰囲気と自分自身の雰囲気は合っていないかったり、登場人物の感情を表しきれなかったり、なかなか思ったようには、表現できない。

それでも何度も稽古し、何度も高座にかけて、お客様に満足して頂ける噺にしていくのが、私たちの修業であり、仕事だ。

なかなかうまくいかなくとも、やりたい噺にとことん向き合う、それは辛くともやりがいのある作業なのだが、時に、歯がゆい思いをすることもある。

同じ状況の二つ目がいたとしても、私たち「女流」噺家の場合、更にハンデがあるようだ。

「この噺は女に合わない」「女がやると不自然に感じる」このようなご意見を、頂くこともある。

そういう見方をするのが、そもそも古いのでは？もっとフラットに見たら良いのに、と感じ

ることもあるが、しかし、聞いた方がもしそう感じたのであれば、それはこちらの力量不足なのだ。

落語はそもそも男性が作り出したものであり、古典落語は男目線で描かれているし、女性が出てきても、それは男が描く女性像なのである。

それを女が語るのだから、男の語りを超えるのは並大抵の技ではないはずだ。

ハンデがあるのはわかりきっていたが、そうしたご意見を耳にすると、辛いこともある。

ただ、まだまだ突き詰めていけるといふことは、とても楽しみなことである。

古典落語をそのまま、女だからということを感じさせずに、聞かせられるようになってみたい。

また、女性だからこそできることにも、挑戦してみたい。

最近その挑戦の一つで、古典落語の中に出てくる女性の登場人物の目線から、新しい噺を作り出してみた。別れた夫婦とそ

の子どもが出てくる、「子別れ」という演目で、前半、別れた夫とその仕事先の番頭さんという男同士の会話で噺が進む。しかしその一方で、本編では描かれていないが、おかみさんと子どももの生活もあつたはずだ。そこを描いてみたかったのだ。

初めての挑戦だったが、高座にかけてみたら、落語をよく知ってお客様からも、自然に噺が入ってきた、新しい試みだと、好意的なお言葉を頂けた。

まだまだ始まったばかりで、課題は山積みだが、始めから無理だとは決して決めつけず、挑戦することを楽しんで、色々なことに取り組んでいきたい。

女性の噺家は、少ないがゆえにその中でも比較されやすい。女がどう、誰がどう、とかではなく、「つる子」の落語は良い、おもしろい、と言って頂けるような噺家になれるようにー。前へ前へ、進んでいきたい。

寄稿者紹介

林家つる子

出身地 群馬県高崎市

出身高校 群馬県立高崎女子高

出身大学 中央大学文学部人文社

会学科 中国言語文化専攻

趣味 音楽鑑賞(ピアノ/ギター)

ダンス(韓国アイドル全般)

特技 日本舞踊(中国語)

経歴

2010.9.1 九代林家正蔵の元に落語家として弟子入り

2011.1 横浜にぎわい座「林家正蔵一門会」にて初高座

2011.3 前座となり、各寄席で修業を重ねる

2015.11.1 一ツ目昇進

2015.11 講談社主催のオーディション「ミスID2016」にて、「I♡JAPAN賞」を受賞

2016.7 ぐんま観光大使に任命

2018.1 研究・イノベーション学会人材問題分科会(45号で寄稿頂いた橋本教授の勉強会)において講師として講演

現在 定席の他、赤坂、四ツ谷、日本橋、草加等での独演会、また、林家

あんど、春風亭一花と3人で「おきやんでいーず」として、歌、コント等を披露している。また、春風亭ぴっかり、一龍齋貞鏡、鏡味味千代、立川こはるの5人で「美男5」という男装グループの一人として舞台に立っており(HP参照)、将来の更なる活躍を期待されている。



おきやんでいーず



輝美男五

【投稿】

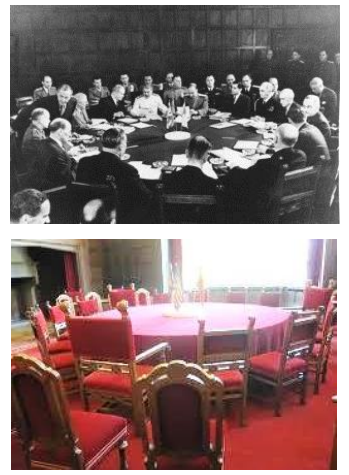
「ポツダム」 佐野 恭子



2007年夏、夫の車でドイツを旅した。ベルリン郊外のポツダムに立ち寄った。人類未曾有の惨事であった第二次世界大戦の終止に大きな役割を果たした建物を、見たいと思った。アウトバーンから深い、静かな森の中に入っていくと地味な小さい建物が現れた。



吸い寄せられるように料金を納めドイツの幅広のドアを開けると、そこは壁が、ヨーロッパでは珍しいことに、質素な木のままの小さい広間だ。年月で木肌は黒ずんでいる。中央に丸テーブルがあり、この小さいテーブルの上で世界何千万もの人々が身を焼かれ、のたうち回った地獄の戦争を辞める会談が行われたのか。小さい広間は、人を殺すのも死ぬのも平然として取引される場であり、テーブルはただならないエネルギーが渦巻いていた。3階にあたる高さに巨大な「同時通訳ブース」と思われる部分があり、ガラス越しに広間を見下ろしてあり、同じ形のニューヨーク国際連合本部、本会議場にあるものに比べて木製であることが戦前を物語る。外



交の最後のフアクターは「言語」だ。同時通訳は本当の腕っこきの、その国を背負ってきた若い女性たちがひしめき、白熱した、人の命が掛った瞬間、瞬間の取引を激しい息遣いをして文字通り命がけで訳していっただろう。チームを組んで、ごく短時間で交代し、そばで聞いている乙女が吐くこともあったろう。そのおかげで、終戦への目途がついた。この会議は7月17日から8月2日に亘り、開始前日の16日にポツダムに到着したトルーマンは人類最初の原爆実験が成功したことを知り、チャーチルらに相談して原爆日本投下の同意を得ている。スターリンは原爆投下で日本が降伏する前に、武力で日露戦争の際失った領土を取り戻すべく、対日参戦を8月8日に早め、7月26日には日本に無条件降伏を迫るポツダム宣言が出た。米国のトルーマン大統領、英国のチャーチル首相、ソビエトのスターリン共産党書記長ら3か国はここで寝食を共にし、居住区は1階部分にあった。

真ん中の一番大きい居住区は米国、隣が英国、ソビエト部分は少し小さい。1階のフロアからは吹き抜けの天井まで木肌が黒ずんだ壁を見上げると、激しい感情に包まれた。言葉にならない。ここで原爆の話があったのか、惨禍のむごさを思った。激しい怒りに変わっていく。気づくと周りを「日本人か・シヨックを受けただろう」というように（ロンドンの戦争博物館でも）私に共感の目を向けて人が通り過ぎた。苦しくて庭に出た。ドイツの夏は緑豊かで美しい。おばあさま達が会話をしながら、唯一手に入る棒に付いたアイスを立てて食べていた。飲食する場は全くなかったためだ。近く



を美しい川が流れ、大樹が広げた枝を風が渡り、日差しが降り注いでいる。何年か前にあれほどの戦争があり、それを終わらせた巨大なエネルギーが、静かなこの場所にあった。



オークランドで入港歓迎、見送り

鳥居 真紀 幹事



9月3日9時30分、オークランド、プリンセススワーフ やや曇り空強風の中「かしま」威風堂々接岸しました。入港作業中に音楽隊の演奏が始まり、行進曲「海を越える握手」、北島三郎「北の漁場」、ONE PIECE「ウィーアー!」を披露。隣接するオフィスワーカーの皆さ

んスマホを片手に撮影会開始。岸壁にも多くの人が集まり賑やかな入港となりました。

入港歓迎式典は無かったものの、在オークランド日本国総領事と揚陸艦カンタベリーの艦長が出迎えて居たとのこと。私たちも水交會旗を掲げてお出迎え。お手振りで答えて下さり、無事に初期任務(?!?)を果たしました。



9月5日10時、戦争記念博物館広場にて献花式典。離れた所からの見学ながら初めての経験



で厳かな雰囲気にも身が引き締まる思いでした。続いてニュージーランド海軍軍楽隊と合同演奏会。両国の音楽隊の演奏も素晴らしいものでしたが、三宅由佳莉3曹の美しい歌声もオークランドに響き渡りました。ニュージーランド側の隊長が日本人の女の子に指揮棒を託す粋な演出も有り聴衆を魅了しました。

同演奏会の最中の12時30分「いなづま」ようやくプリンセススワーフに入港しました。

9月6日19時、オークランド剣道クラブでの文化交流見学。試合形式の合同稽古は、見応えたっぷり。道場長のグラハムセイヤー氏は、日本語も完璧ながらニュージーランドナンバーワンの剣士(7段)。両国互角な腕前の様でしたが、自衛隊チームの勝利となりました。

9月7日穏やかな春の日差しに包まれ12時30分の予定よりも若干早く「いなづま」、12時55分「かしま」、美しく凛々しい登舷礼、「蛍の光」の音色と共にシドニーに向けて出港しました。

岸壁では、出港準備前から人だかりで口々に「ビューティフル!」「クール!」とお騒ぎ。沢山の人の温かいお見送りでした。私達も横須賀水交會旗と今回デビューの水交會手振り旗でご安航を祈念しました。



終わりに、この度は梶元司令官のご厚意で艦隊の皆様へ恐縮するほどのご高配を賜りましたこと心より御礼申し上げます。司令官のお気遣いは、歓談の際の「(私達の)後ろに加藤会長を筆頭に色々な先輩の顔が浮かぶんだよね。よろしく頼まれて」に全てが凝縮されていると思います。練習艦隊司令官を務められたOBの方々にも多くのお力

添えとアドバイスを頂戴致しました。まるで守護神の様な水交会の皆様方誠にありがとうございます。一生忘れられない楽しい思い出ができました。来年も宜しくお願い致します！



潜水艦救難艦「ちよだ」を見学

清水 基晴 幹事



令和元年6月15日(土)、中部地区在住の横須賀水交会会員等59名が、名古屋港ガーデンふ頭に寄港中の潜水艦救難艦「ちよだ」を見学しました。

この見学は、名古屋の清水横須賀水交会幹事の声掛けで、自衛隊愛知地方協力本部が主催した見学会の前に、特別公開の形で実現したものです。

当日は、梅雨空のもと、水交会会員、愛知県及び岐阜県の隊友会会員並びに援護関係者や募集対象者を含む自衛隊協力者等の参加者が三々五々「ちよだ」係留岸壁に集まり、7時半過ぎには集合を完了しました。

集合後は、清水幹事から「ちよだ」見学のスケジュールや注意事項などの説明ののち、自衛艦旗の掲揚に備え後部の旗竿付近に視線を移しました。8時丁度にラッパ「気を付け」で姿勢を直し、ラッパ「君が代」で曇り空に厳かに揚がってゆく自衛艦旗に正対して敬意を表しました。

その後、艦側から、「ちよだ」についての簡単なブリーフィングに続き艦内見学についての説明を受け、4グループに分かれて見学を開始しました。各グループには科長とその補佐の乗員

がついて案内してくれました。

「ちよだ」は、昨年3月に就役したばかりの新鋭艦で、母港は横須賀。大砲やミサイルはないが、潜水艦の乗員を救出するための深海救難艇(Deep Submergence Rescue Vehicle: DSRV)や遠隔操作式の無人探査機(Remotely Operated Vehicle: ROV)を含む潜水救難装置(DSRG)一式が装備され、

救出後の対応のために潜水病治療用の再圧タンクを3基備えています。護衛艦を見学したことのある参加者もこの特殊な自衛艦の装備には目を見張り、隊友会からの参加者には艦艇見学そのものが初めてという人が多く、大いに意義ある見学となりました。また、募集対象者に当たる4名の学生等には、自衛隊、特に海上自衛隊を身近に感じてもらう良い機会になったものと考えます。

参加者は、ちよだ艦長はじめ乗員各位の暖かいもてなしへの感謝と、新鋭の潜水艦救難艦を目にした感激を胸に「ちよだ」

をあとにしました。

今回、協力いただいた関係各位に感謝しつつ、海自部隊が所在しない中部地区において、水交会会員及び海自OBを中心に海自のPRに尽力してゆく所存です。皆様には、時折こちらにも目を向けていただければ幸いです。

なお、この見学には海自の幹部OB2人が参加していました。一人は32期の川村大介氏で学校法人理事長(水交会未加入勧誘中)として、もう1人は36期の棚岡充雄氏で伊勢三河湾水先区の水先人として活躍しています。関東在住の水交会会員の皆さんにお知らせしたく付記しました。



護衛艦「いずも」部隊研修所感

中島 一浩 会員

令和元年10月4日(金)、青空の横須賀駅からもその巨大さが望める「いずも」に向かい、荷物検査を通る。するとそこに立っていたのは、なんと笑顔の永田幹事長であった。率先垂範とはこのことか。テーマパークの入口でいきなりメインキャラクターに会ってしまったような気分だ。「楽しんでくださいいね」と声を掛けられ、横須賀水交会のテントで乗艦パスを頂く。たくさんの敬礼のご挨拶を受けながら、海上自衛隊最大の護衛艦に乗り込んだ。広大な格納庫、我が家より広いのに素早い動きのエレベーター、そして輝く空色のドームに閉じ込められたかのような飛行甲板。3か所ある食堂の横にアイスクリームの自販機まで備える「いずも」は、なにもかも格別の艦であるように感じた。

僚艦の登舷礼を受けながら横須賀を出る。海風吹き抜ける飛行甲板の心地よさに圧倒されて

いると、行き道にいる船の次の動きを永田幹事長が次々と解説してくださる。なるほど船乗りの先読みというのはこういうものなのか。艦内を動き回ると、ラツタルの上下、廊下の出口、あらゆるところに自衛官の方々がおられ、「こんにちは」「頭に気を付けてくださいいね」と声をかけられる。格納庫に戻れば音楽隊のブラスバンドと、「パプリカ」を歌う歌姫の笑顔。機関室では号令一下きびきびと機関科員が操縦を続けている。ベイブリッジをくぐるときには「マストと橋の距離はおよそ5mです」とアナウンスが入り、甲板を埋め尽くした人々にどよめきが広がった。横浜港に入りキャットウォークに出たワッチが双眼鏡を覗きながらヘッドセットで交話している。やがて船は大きな橋に接岸し、またたくさんの、今度は「ありがとうございました！」という声とともに敬礼のご挨拶を受けながらスロープを降りた。少し歩いて振り返ると、艦尾では当直の皆さんが自衛艦

旗の降下を執り行っていた。最新の護衛艦、数々の装備には大いに感嘆したけれども、何より私の印象に残ったのは、乗組員はじめ、この日のために準備され、私たちを一日もてなしてくださった多くの海上自衛官の皆さんの、素敵な顔であった。誠実なお仕事ぶりに心強さを感じた。このような貴重な機会を設けて下さった海上自衛隊各部隊の皆様、横須賀水交会の皆様、本当にありがとうございました。

【参加行事等紹介】

1 令和元年度練習艦隊

横須賀入港歓迎行事、
遠洋練習航海部隊出国行事

参加等

5月7日(土)、5月の爽やかな風が吹く中、練習艦隊(司令官 梶元 大介 海将補)は、最後の総監部寄港地となる横須賀逸見岸壁に入港しました。

本年度の練習艦隊は練習艦

「かしま」、護衛艦「いなづま」及び練習艦「やまゆき」の3隻で3月16日(土)に編成され、近海練習航海を実施しました。

今回横須賀に入港したのは、遠洋練習航海に従事する「かしま」(艦長 高梨 康行 1等海佐)、「いなづま」(艦長 國分 一郎 2等海佐)の2隻であり、第69期一般幹部候補生課程修了者約190名(うちタイ王国海軍少尉)を乗せて逸見岸壁に接岸しました。

入港歓迎行事では、渡邊 剛次郎横須賀地方総監をはじめ各級指揮官等多くの隊員、上地



克明横須賀市長をはじめとした多くの来賓、各支援団体が、入場する練習艦隊司令官、乗員及び実習幹部を出迎えました。

横須賀水交會からも多数の会員が自衛艦旗小旗・水交會旗を掲げ、横須賀入港を歓迎するとともに乗員の激励を行いました。短い時間ではあったが心のこもった歓迎行事でした。



同日夕刻、「よこすか平安閣」

において横須賀市長、横須賀市議会、横須賀防衛協会、横須賀商工会議所及び横須賀地方総監部共催の遠洋練習航海部隊壮行会が行われました。

壮行会は、主催者代表の上地横須賀市長(代読)の練習艦隊・実習幹部に対する激励から始まり、司令官及び実習幹部代表に対する花束贈呈、司令官及び横須賀出身実習幹部代表の挨拶と続いた後、平松 廣司商工会議所会頭の発声により高らかに乾杯が行われました。

実習幹部は多くの海自現役隊員、海自OBや支援者との歓談を通じて自分たちに対する期待の大きさを感じ、それに応えようとする意気込みが感じられました。

壮行会は小山 満之介横須賀防衛協会会長の万歳三唱が行われ、その答礼万歳を「かしま」艦長が行い、大変盛り上がった中での終了となりました。

壮行会終了後、場所を移して練習艦隊司令官、各艦長、先任伍長等を招待して横須賀水交會

主催の歓迎夕食会が行われました。渡邊総監も参加された夕食会は、加藤会長、渡邊総監の挨拶、で始まり、終始和やかな雰囲気の中で近海練習航海の労をねぎらった。最後に万歳三唱でお開きとなりました。

令和元年度遠洋練習航海部隊は、派遣人員は、第69期一般幹部候補生課程修了者約190名を含む約580名である。期間は、5月21日(火)から10月24日(木)であり、訪問予定国は、11か国、13寄港地(※)、総航程、約4万9千キロメートル(約2万6千マイル)です。

5月21日(火)、雨天のため厚生センター体育館において出国行事が行われ、早朝から多数の見送りの人々が集まってきました。横須賀水交會からも加藤会長をはじめ約20名の会員が参加しました。

出国行事は、白い制服に身を包んだ実習幹部が凛々しく整列する中、原田憲司防衛副大臣の実習幹部に対する訓示から始まり、佐藤正久外務副大臣の祝辞、

海上幕僚長の壮行の辞へと続きました。



その後、来賓紹介、祝電披露、花束贈呈と続き、最後に梶元練習艦隊司令官から、「環太平洋方面令和元年度遠洋練習航海に出発します。将来に亘る我が国海上防衛のため、逞しい初級幹部を育て上げるとともに国際親善に励んでまいります。」と力強い決意が述べられました。

実習幹部は、横須賀音楽隊が奏でる軍艦マーチに合わせ夢と希望を心に秘め、颯爽とそれぞれ

れの艦に乗り組み、最初の寄港地パールハーバーに向け雨の中出港して行きました。

(石井 順 幹事 記)

(*)..アメリカ合衆国(パールハーバー、サンにおいてデイエゴ、グアム)、グアテマラ共和国(ブエルトケツアル)、ペルー共和国(カヤオ) エクアドル共和国(グアヤキル)、メキシコ合衆国(マサトラン)、仏領ポリネシア(パペーテ) フィジー共和国(スバ)、ニュージーランド(オークランド)、オーストラリア連邦(シドニー)、パプアニューギニア独立国(ラバウル)、パラオ共和国(コロール)



2 令和元年度馬門山海軍墓地

墓前祭を開催

第64回横須賀馬門山海軍墓地墓前祭が、令和元年5月11日(土)午前9時30分から約1時間にお

たつて新緑鮮やかな同墓地(横須賀市根岸町一丁目五番地)において厳粛に執り行われました。

墓前祭は、横須賀水交會、隊友會横須賀支部、大津地区社会

福祉協議會、大津地区連合町内會、大津観光協會の計5団体の

共催であり、当會會員も記帳、受付、案内、進行補佐などを担

当して、式典の円滑な運営に大きく貢献しました。

当日の天気も申し分なく、式典が進むにつれて初夏を思わせる日差しがそそぎ、日陰が恋しくなるほどでした。

参列者は、ご遺族並びにその関係者を始め、来賓として上地克明横須賀市長、はじめ防衛省、海上自衛隊から横須賀地区各指揮官等のほか、主催5団体それぞれ

の長・會員並びに一般参列者等を合わせ計約380名(内

当會からは約30名)であり、そ

れぞれが祖国のために散華された英霊を追悼するとともに、わが国及び世界の恒久平和に祈りを捧げました。

墓前祭は、「国歌斉唱」に続き

隊友會横須賀支部長及び横須賀市長の「追悼のことば」、「黙とう」、海自儀仗隊による「拝礼」

及び「弔銃発射」、「献花」の順に行われました。

今回も海上自衛隊横須賀音楽隊の積極的な支援が得られました。

横須賀音楽隊は、「君が代」、「国の鎮め」など式典最中の演奏のみならず、開式までの間に

「巡検ラツパ」などを演奏し、墓地に眠る御霊を鎮めるとともに、会場を荘厳かつ和やかな雰囲気

に包んでくれた。

さらに湘南学院高等学校学生

による受付や献花の支援もすっかり定着し、墓前祭には欠くこ

とができなくなっています。このような活動に携わる若者たちが、御霊の遺志、参加者の思い

を将来に継いでくれるに違いありません。

最後に、準備や撤収を全面的

に支援してくれた海上自衛隊横須賀教育隊隊員の皆さん、濟々たる動作で高い練度を示してくれた横須賀警備隊儀仗隊の皆さんなど海上自衛隊横須賀地方隊関係各位の絶大な支援に対して、主催各団体から深甚なる感謝の意が表されたことを付記する。

(濱田 暢喜 幹事 記)



3 令和元年度「海軍の碑」記念行事

横須賀水交會は、令和元年5月27日(日)に横須賀市ヴェルニー公園(JR横須賀駅前)内の「海軍の碑」前において、記念行事を行いました。

「海軍の碑」は、近代海軍創設とともに発展した軍港都市横須賀の歴史の象徴として平成7年11月17日、全国の海軍関係者及び有志の浄財により建立されたものです。



本行事は、「海軍の碑」が建立された後、海軍記念日(明治38年(1905年)5月27日の日本海海戦を記念して制定されましたが、昭和20年(1945年)廃止)だったこの日に、横須賀

海友会が主催して毎年行われてきましたが、平成14年以降は海友会と合同した当会が実施を担当しています。

当日は天候にも恵まれ、夏を思わせるような日差しの中での実施となり、参加者は約30名超でした。

次第は、国旗及び軍艦旗の掲揚、海軍英霊に対する黙とう、「海軍の碑」建立趣旨の朗読、加藤 保横須賀水交會会長の挨拶「海軍が気付いてきた事を若い人達に語り継いでいく事が、我々の使命であるので、一人でも多くの方の参加を目指したい。」があり、その後木陰に移動し、土井顧問から顧問講話がありました。内容は、海上自衛隊に係る官民の形態の現状について、武器システムの勉強会、大綱、中期防を通じて感じた事でした。



その後、元の位置に戻り、国旗及び軍艦旗の降下をもって閉式となりました。

短時間ではありましたが、本行事は海軍の偉業を偲びつつ、祖国のため散華された多くの御霊に対する追悼の念と平和の祈りを捧げる厳粛なひと時となりました。



4 横須賀水交會令和元年度定期総会、講演会及び懇親会開催

6月8日(土)横須賀水交會の令和元年度定期総会、講演会及び懇親会が、「よこすか平安閣」において盛大に開催されました。

総会は参加者93名であり、永田幹事長の司会により、物故者に黙祷をささげた後、会則の規定により加藤会長を議長として3つの議案について審議が行われ、いずれも賛成多数で了承されました。

その概要は次のとおりです。

①「平成30年度の活動報告、収支決算、監査報告」については、49名の新入会員があり、会員数は29年度末と比較し、24名増の927名であること、また、各事業とも計画どおり順調に実施されたこと。

②「新役員の選任」については、12名新任、変更等があり、現状はあわせて、顧問8名、幹事80名、監査幹事2名で構成されていること。

③「平成30年度事業計画及び予算」については、本部業務計画に基づく6つの活動方針ごとに事業計画を策定し、今年度も有志会員部隊研修を行うこと。ほぼ例年どおりの事業規模と予算が計上されたこと。

次に本会会員で平成30年度秋

及び平成31年度春に叙勲受章された方々の紹介があり、当日参加された方々に対し参加者全員が拍手をもつて祝福しました。総会は成功裏に終了しました。

休憩の後、「新たな防衛計画大綱、中期防と海上自衛隊の取り組み」と題して、横須賀地方総監渡邊 剛次郎海将による講演が行われました。参加者は、約139名でした。

内容は、「我が国の基本方針」から始まり、「海上自衛隊の取り組み」では、①人の充実、②機能の充実、③構想の充実、④共働の充実 等 最新の情報を図数値、グラフを交え詳しく、分かりやすく説明して頂きました。また、「横須賀海軍航空隊」についても、話して頂きました。



講演終了後、会場を移し、国会議員、田中横須賀副市長、県議・市議、防衛関係諸団体代表及び横須賀地方総監、防衛大学校訓練部長他、防衛省・自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓の臨席を得て、懇親会が行われました。加藤会長からの挨拶に続いて、来賓を代表して上地横須賀市長(代読)及び小泉進次郎衆議院議員から祝辞を頂きました。皆様の祝辞からは横須賀水交會對する深いご理解が感じられ、会員一同深い感銘を受けました。渡邊横須賀地方総監の音頭で高らかに乾杯し、懇談に入りました。約160名の参加を得て開催された懇親会会場のあちこちに再会と交流の輪が広がり、横須賀地方総監の講演内容等を話題にした防衛談義の花が咲きましたが、香月横地隊先任伍長の中締め乾杯をもって、名残惜しくも散会しました。

(石井 順 幹事 記)

4 横須賀地区

夏季防衛講座開催

令和元年8月24日(土)横須賀地区防衛諸団体共催(*)の横須賀夏季防衛講座が記念艦三笠講堂において開催されました。

今回の講演の講師は同志社大学法学部特別客員教授 阿川尚之氏、演題は「憲法から見たアメリカの戦争、大統領、軍隊、議会司法の権限国民の権利と義務について」でした。阿川教授は、米国ジョージタウン大学ロースクール卒業後、ニューヨーク州及びコロンビア特別区の弁護士資格を取得され、2002年から2005年の間、在米国日本大使館広報文化センター所長兼公使も歴任され、現在は慶応義塾大学名誉教授でもあり、米国日米関係に大変御造詣が深い方です。



当日は、今年の夏を象徴するような酷暑でしたが、国会議員及び地方議員並びに25名の現職自衛官を始め来賓、各団体会員等、総計197名の聴講者が集まりました。

1部「講演会」は、開会の辞に始まり、国歌斉唱、協賛団团长紹介、横須賀水交會会長による講師紹介、そして講演、質疑応答に続きました。

講演内容は、米国人が憲法をどう考えているのか、憲法と軍隊をどう考えているのかという事を「アメリカ合衆国の制定の過程」、「日本国憲法との比較」、「憲法と安全保障」等具体的な例を挙げながらの貴重な講演でした。

2部「納涼懇親会」は、場所を「神奈川歯科大学学生食堂」に移して実施されました。懇親会は、古谷範子衆議院議員、三浦信祐参議院議員を始め、横須賀市副市長(名前確認)、県議、市議(他に葉山町長等)及び自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓の出席を得て行

われました。

小山萬之助横須賀防衛協會会長からの挨拶に引き続き、古屋範子衆議院議員から御挨拶を頂いた後、渡邊剛次郎横須賀地方総監による乾杯で会は始まりました。講師の周りには、人だかりができ、また会場のあちらこちらでは防衛論議に花が咲いていました。

途中では遅れて参加された三浦信祐参議院議員からもご挨拶を頂くなど、会は大いに盛り上がりましたが、予定していた時間は瞬く間に過ぎ、講師をお見送りした後、名残惜しさのある中、散会となりました。

酷暑の中、講演会と懇親会が成功裏に終了することができたのは、横須賀隊友会を始め企画運営に携わった役員のおかげであると多くの参会者が感謝していたのでここに紹介いたします。
(宮崎 道夫 幹事 記)

*横須賀防衛協会、横須賀水交會(主幹事)、隊友会横須賀支部(副幹事)、三笠保存会、横須賀

曹友会、隊友会武山三浦支部、自衛隊家族会三浦半島地区会、三浦半島自衛官募集相談員会、横須賀海交會、桜友会(順不同)



8 横須賀教育隊修業式に

おいて、横須賀水交會から
激励賞を授与

横須賀水交會では、8月27日(火)横須賀教育隊第13期一般海曹候補生課程、第373期練習員課程及び第63期練習員(女性)課程の修業式において、成績優秀者3名(男性1名、女性2名)に対し、表彰状及び記念品を贈呈しました。

本表彰は、平成25年度は、横須賀水交會独自の事業として実施されましたが、平成26年度か

らは、水交會全体の事業として全教育隊で実施されているものです。

当日は、第13期一般海曹候補生課程537名(男性・414名、女性・123名)、第373期練習員課程178名及び第63期練習員(女性)課程160名から選考された学生に対し贈呈されました。

本年度の修業式は、修業生数約900名、ご家族等約1500名、部内外の来賓等約1000名の参加となったことから海上自衛隊保有の体育館では、参加者を収容できないため陸上自衛隊武山駐屯地体育館を借用しての式典となりましたが、それでも全員が参列できず、一部のご家族は、パブリックビューで式に参加することとなりました。

連日、猛暑が続いていることから式典は昨年同様、例年より1時間繰り上げられ9時から開始、11時には見送りを含めたすべての行事が終了しました。

なお、体育館にはスポットクーラーも設置され、幾分室温も

抑えられ、式典は整齐と実施されました。

激励賞授与は、部内外の来賓や全国各地から来られたご家族等参列の元、加藤会長から贈呈され、横須賀水交會の知名度向上に大きく貢献したものと思います。

今回、以下の方々が表彰されました。

第13期一般海曹候補生課程

2等海士 梅 村 華 苗

(うめむら かなえ)

第373期練習員課程

2等海士 堀 越 翔 斗

(ほりこし しょうと)

第63期練習員(女性)課程

2等海士 田 口 そよ風

(たぐち そよか)

今回、表彰された皆様が、部隊において更なる研鑽を積み重ねの防人として大きく成長されることを横須賀水交會一同祈念しております。

(吉岡 俊一 幹事 記)



【トピックス】

1 「浜空鎮魂の碑」慰霊祭に参加

4月7日(日)満開の桜で賑わう横浜市金沢区富岡総合公園内の浜空神社跡地において、浜空会(横浜海軍航空隊の会)は「浜空鎮魂の碑」慰霊祭を48名の参加者を得て斉行しました。

慰霊祭には、遺族会及び隊友会、横須賀水交會、湘南水交會等の海自OBと共に今年度は、ノンフェクション作家大島幹雄氏の新書「語り継ぐ横浜海軍航空隊」を読み駆け付けた一般の方も10名参加されました。現職隊員からは横須賀地方総監渡邊剛次郎海将及び自衛艦隊先任伍長青山曹長、横須賀地方隊先任伍長香月曹長、海自先任伍長補佐小成曹長及び横須賀音楽隊(ラップ員)本田2曹が休日を返上し先人の尊い命を偲ぶため慰霊祭に駆けつけて頂きました。

慰霊祭は、軍艦旗掲揚に引き続き雷神社(追浜)秋山宮司による「修祓の儀、献饌の儀、玉串奉奠、撤饌の儀」が行われた

後、軍艦旗降納を行い無事に終了した。終了後の直会(なおらい・神事の最後に参加者一同で神酒を戴き神饌を食する行事)は、公園内の桜の木の下の移動し浜空会加藤会長の挨拶を皮切りに、浜空隊員への思いや現職隊員の現状などを熱く語り合い御霊に感謝を捧げました。

横濱海軍航空隊は、昭和11年10月1日にこの地に開設され、その守護神として浜空神社が造営され神社を中心とした広大な陸上の敷地と現在埋め立てられた根岸湾に水上の飛行艇発着場を占有していた。隊員約千名大型飛行艇の機を有する海軍最大の飛行艇専門航空隊としてその威容を誇っていました。

今年度は、慰霊祭始まって以来の3つの新たな出来事があった。まず初めに「語り継ぐ横浜海軍航空隊」著者の大島氏と読者の方が参加されました。次に横須賀地方総監渡邊海将が参加されました。最後に横須賀音楽隊員の生演奏による慰霊祭の進行が実施できました。これら3

つは浜空会の懸案事項である参加者の激減を払拭する出来事であり浜空会加藤会長及び事務局加藤郁夫氏も胸を撫で下ろす事となりました。



浜空会は、会員方々の高齢化が進み浜空会の存続や慰霊祭の開催を大変危惧されていた中で、の事であり、今後の浜空会存続の大きな一歩であり新たな道筋が見えたうれい出来事であった。これを機会に今後多くの方々に慰霊祭を知って頂くと共に来年度以降も参加者が増えることを願い、引き続き関係諸団

体に加藤会長の思いを伝えて行きたいと心を新たにしました。

この横浜海軍航空隊に思いを馳せて祖国を旅立ち、日本のために尊い命を捧げられた多くの御霊に永久に慰霊を捧げられるよう、引き続き皆様のご協力が得られますようお願いし終わりとする。(高橋 進 副会長 記)



2 横須賀水交會

「国立印刷局東京工場」を研修

6月20日(木)、多少蒸し暑さを感じる中、午前から横須賀水交會会員16名は、靖国神社定例参拝に集まる機会を活用して、「国立印刷局東京工場」の研修を行いました。

国立印刷局は、決済システム

の中で重要な役割を果たしている日本銀行券(紙幣)を始め、官報、旅券、郵便切手、証券等を公共性の高い製品を製造しています。また、高度な偽造防止技術等に係る研究開発も行っています。

国立印刷局の組織としては、本局、機関があり、機関には、研究所の他に、東京、王子、小田原、静岡、彦根、岡山工場がある。今回研修させて頂いた東京工場は、東京都北区にあり、日本銀行券、収入印紙、その他諸証券類の製造、官報、国会会議録・法律案・予算書・決算書、その他の国会用製品を製造しています。各工場には、それぞれ所掌製造品目があります。

紙幣等重要なものの製造ということで入門時から手荷物検査、指定場所以外の撮影禁止等、セキュリティが厳しいでした。

まず、視聴覚室において職員の方からビデオを使用した国立印刷局及び東京工場の全般説明があった。その際も、筆記用具以外は、指定ロッカーに格納と

なりました。

移動し、紙幣の製造現場での見学がありました。2階の見学廊下から、紙幣を印刷する現場をガラス窓越しに見学できました。国立印刷局では、紙幣の紙やインクも製造しています。

工場見学終了後、元の部屋に戻り、隣にある展示室の見学となった。紙幣の製造工程や偽造防止技術について、パネルや体験装置を使いながら、分かりやすく学ぶことができました。

例えば、紙幣に盛り込まれた偽造防止技術には、触って分かる「深凹版印刷」、「識別マーク」、透かして分かる「白黒すかし」、「すき入れバーパターン」。

傾けて分かる「ホログラム」、「潜像模様」、「パールインキ」。器具を使用してわかる「マイクロ文字」、「特殊発光インキ」等があり、経済及び社会の安定の維持に役立っています。

靖国参拝の機会を活用した研修は、今回で3回目ですが、毎回、興味深い場所の設定であるため、大変勉強になり、知らな

い事が多いのを実感させられました。

研修を終えた一行は、水交會主催の月例参拝が行われる靖国神社に向かいました。

大野 慶二 幹事 記)



3 靖国神社等月例参拝

6月20日(木)、恒例の靖国神社等月例参拝を実施しました。当日は、梅雨の時期らしく蒸し暑い日でした。今回、旧海軍出身者は、兵学校74期の高田 忠氏以下、甲飛会、計7名、海自OBは、幹候6期の富田 成昭氏以下クラス代表及び関係者を含め33名、電子会1名、横須賀

水交會15名及び水交會本部6名の合計62名でした。今回の横須賀水交會参加者は15名でしたが、今後も積極的な参加を呼びかけていきたいと思えます。今回は、2月です。月例参拝の参加及び初回参加者のお誘い、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

山口 建史宮司様からは、次のお話がありました。「みたま祭りの準備について」、「靖」国御創立150周年の記念行事としてバリアフリー化について」。その後、兵学校74期高田氏を総代として、参拝が行われました。



参拝終了後、それぞれ徒歩で千鳥ヶ淵戦没者墓苑まで移動しました。

千鳥ヶ淵では(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会から、主に次の説明がありました。

「5月27日の拝礼式の状況」、「元年度の遺骨引渡式の予定」。参拝終了後、バスの支援を得

て、防衛省慰霊碑に向かいました。到着後、わだつみ会会長の挨拶を受け、代表者により献花を行いました。

水交會レストランで開催された直会は、加藤会長の挨拶から始まり、一同での献杯、参加者の近況報告を含めた自己紹介を行い、楽しいひと時となりました。(大野 慶二 幹事 記)



4 ファミリーサポート

家族交流会に参加

7月6日(土)、横須賀地方総監部大会議室において、総監部主催の第5回ファミリーサポート(※)家族交流会が開催されました。

当日は、朝から霧雨が降る梅雨特有の天候であったが、欠席者も無く参加予定者が集合しました。

今回の参加者は、支援を希望する「依頼会員」5家族16名と、横須賀水交會会員の24名及び総監部関係者が8名の合計48名でした。

ファミリーサポート事業のきっかけは、①海上自衛隊において緊急呼集の際、両親が二人とも自衛官、事務官で子供を預けられる親戚または、親しい友人宅など子供達を預ける施設がない。②24時間態勢で子供を預かる市の施設は未だ整備されていません。そこで、横須賀水交會が支援することにより隊員家族の負担が軽減できるのではないかと考え、2015年6月ファ

ミリーサポート事業を立ち上げました。

現在のファミリーサポートセンター(以下、「横須賀ファミリーサポート」という。)会員は、30名である。本事業に対する、理解者は増加しているものの会員登録をして頂ける方は極めて少ないのが現状です。

交流会は、総監部管理部長の挨拶を皮切りに、管理部担当者からのファミリーサポート事業に関する説明、その後、「依頼会員(隊員)」と「提供会員」がそれぞれペアごとに顔合わせと懇談を行いました。緊張の面持ちで打ち合わせが始まりましたが時間の経過とともに和やかなムードとなり、食べ物嗜好や苦手な動物、アレルギーや健康状態など子供の現状やお互いの家庭環境について情報効果を行いました。今後は、それぞれの生活環境や勤務態勢に沿った支援活動が出来るよう柔軟なファミリーサポートセンターを目指したいと考えています。

続いてお楽しみゲーム大会が

開催された。毎年これを楽しみに集まる会員もおり、ゲーム説明が始まると皆真剣に聞き入り、子供達のみならず、大人も大はしゃぎでゲームを楽しみました。なお、ゲームの景品として横須賀水交会から子供たちにお菓子等をプレゼントしました。

ゲーム大会終了後に横須賀水交会道家副会長から、この施策の重要性と必要性、更に隊員に対する横須賀水交会の思いを参加された家族に伝え、家族交流会は終了しました。

ファミリースポーツセンターも創設以来5年を迎えましたが、まだまだ問題点もあり今後更に関係各所と連携を取りながら、施策の向上に努める必要があると強く思う次第です。

最後に、横須賀水交会は、総監部の意向に沿って、今後もできる範囲で支援を継続し、依頼・提供両会員の募集を強化するとともに本施策の更なる充実を図り、いざという時に本領発揮できるように努力を重ねていく所存です。「子供は国の宝！」

(副会長 高橋 進)

(*)ファミリースポーツ正式には「ファミリースポーツセンター事業」とい、子育てを地域で相互援助することを目的としている。内閣府の「地域子ども子育て支援事業」の一環として全国の市区町村で実施されているものである。



5 令和元年度第1回幹事会

9月4日(水)、横須賀市総合福祉会館において、令和元年度第1回幹事会が、会長、顧問、その他幹事等役員約40名が参加して行われました。

永田幹事長の司会進行により、加藤会長の挨拶に引き続き、まず今年度上半期の実施成果として、定期総会、練習艦隊出国関連行事、馬門山海軍墓地墓前祭、海軍の碑記念行事、靖国神社定例参拝、練習艦隊入港歓迎行事、靖国神社等月例参拝、水交会本部支部長会議、夏季防衛講座、ファミリースポーツ交流行事等に関して、担当幹事から、成果・所見について説明があり、次回へ生かすための討議もありました。

次に、実施予定の活動である部隊研修(護衛艦「いずも」、自衛隊記念日行事支援、合同賀詞交歓会及びゴルフコンペ(令和元年11月13日(水) 参加締め切り11月1日(金))に関して、担当幹事から計画(案)等についての説明がありました。

いずれの案件に関しても参会者から今後の活動も視野に活発かつ熱を帯びた意見が交換されました。

会議終了後、大滝町にある「中華飯店」において懇親会が行われました。会場は、酒が進むにつれ、過去に携わった仕事についての思い出話等、其々のテーブル毎に様々な話題で盛り上がりましたが、宴もたけなわの所で、中締め乾杯をもって懇親会を終了しました。



6 令和元年度

横須賀水交会部隊研修

10月4日(金)、令和元年度横須賀水交会部隊研修を観艦式付帯行事における一般公開のため横須賀から横浜大さん橋へ進出

する護衛艦「いずも」に体験航海として実施し、横須賀水交會として約200名が参加しました。

ヴェルニー公園からも多くの人が見守る中、「いずも」横須賀逸見岸壁を出港しました。海上自衛隊新鋭かつ最大の護衛艦「いずも」の研修を通じて海上自衛隊第一線部隊の現状について理解を深めるとともに乗員の方々との交流を通して激励する事ができたものと考えます。また、快晴の東京湾から遠望する横須賀、横浜の景色も満喫するなど、貴重な体験をすることができました。

当日、参加者全員が、台風18号の影響を心配しておりました。午前中は雨でしたが、受付開始の頃には夏のような日差しが降り注ぎました。



参加者は、乗員家族、日米ネイビー友好協会、隊友会、自衛隊父兄会、湘南水交會等を含めると現在注目を浴びている艦であるので総勢約1800名もが乗艦しました。しかし、参加者一同、広大な飛行甲板や格納庫に驚くばかりで混雑など全く感じることなく、むしろ「いずも」の巨大さが印象付けられる結果となりました。

帽振れ～



出港後は、15分ごとに運用される航空機用昇降機により飛行甲板と格納庫を自由に行ききでき、対潜哨戒ヘリの展示・説明、航海中の周辺の説明アナウンスそして、格納庫では、大スクリーンによる「いずも」等のビデオ放映、更に横須賀音楽隊の演奏で盛り上がり至れり尽くせりでした。

そして、何よりも乗員の皆さんの懇切丁寧な乗艦者への説明、配慮、浚刺とした勤務ぶりに感銘を受けました。

ベイブリッジの下を通過する際は、海上から見上げる景色の珍しさに加え、マストが橋げたにぶつからんばかりの迫力に思わず歓声が上がりました。



あつという間の数時間であり、ほぼ予定通りに横浜大さん橋に横付けしました。その際、横浜大さん橋の屋上広場及び2階にいた人達は、「いずも」の巨大さに驚いた様子でした。

退艦後、離れて見た「いずも」は、夕焼け空をバックに雄々しく見えました。



山下町の「ホテル横浜ガーデン」3階「モミザ」に会場を移し、横須賀水交會部隊研修参加者による懇親会が開催されました。

懇親会は、加藤会長の挨拶に始まり、松崎顧問n海上自衛隊での勤務における貴重な体験談の後、乾杯の発声で幕が開けました。体験航海の余韻にひたひたつ、旧知の仲、または、初めて会った同士で、今回の研修、海上自衛隊についての会話に花を咲かせたほか、くじ引きによる海上自衛隊関連グッズ争奪ゲームで盛り上がりました。その賞品は、横須賀水交會常務幹事等が長年の海自用自衛隊勤務で得た今では、手に入らないお宝でした。賞品を渡しやすいように並べた状態を撮影していた参加者もいました。残念ながら、総員の方に行きあたりませんでした。次回のために、また、常務幹事等は、自宅の押し入れ等を探し回る事でしょう。

参加者全員が、大満足のうちに、道家副会長の中締めで、長時間

の部隊研修は成功裏に幕を閉じました。

今回の部隊研修は、観艦式及び付帯行事の準備で多忙な時期にも関わらず、護衛艦「いずも」以下関係各部の御配慮により実現したものであり、横須賀水交會として海上自衛隊の支援の決意を心新たにしました有意義な一日でした。

(乳井 三治 幹事 記)



【お知らせ】

1 台風19号に係る

災害派遣部隊への激励品贈呈

海上自衛隊横須賀地方隊の部隊では、台風19号が東日本を襲った翌日の10月13日から総監部、横須賀警備隊及び多用途支援艦「えんしゅう」など隊員約70名が派遣され、福島県、宮城県を中心に行方不明者の捜索、入浴支援、給水支援などの活動に活動しています。

10月21日(月)、加藤横須賀水交會会長から渡邊 剛次郎 横須賀地方総監へ激励品を贈呈しました。

記録的な大雨により多くの河川が氾濫し、未だ広大な地域が浸水していますが、渡辺総監によれば、福島県いわき市では浄水場が冠水し約6万世帯が断水状態、ライフラインの復旧には長期間を要することです。

犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、被災された多くの皆様にお見舞い申し上げますとともに、現地で任務に従事して

いる隊員各位のご健闘をお祈り申し上げます。



2 幹事会終了後の懇親会に参加してみませんか！

横須賀水交會では9月、12月及び3月に幹事会を開催しており、終了後には自衛官等をお招きして懇親会(夕食会形式)を実施しております。平成28年度からはこの懇親会に役員以外の会員の皆様にもご参加いただいております。これまで会員同士の交流機会が総会や賀詞交歓会などに限られていたことを解消するための試みですので、ふるってご参加ください。

開催日や懇親会会場、費用等につきましては、開催日の概ね1か月前に横須賀水交會ホームページ(当面の活動予定欄)に

掲載いたしますので、参加を希望される会員はお手数ですがお葉書にて事務局までお申し込みください。

なお会場準備の都合もありますので、申し込み及び変更につきましては開催日の10日前までに完了して頂くようお願いいたします。

葉書宛先…〒237-0046

横須賀市西逸見町1丁目無番地

横須賀地方総監部付

横須賀水交會事務局宛

記載事項…参加される方の氏名、

会員番号、連絡先

3 横須賀水交會 全会員用

メンバーングストの新設について

さて、この度、かねてよりご要望が多かった、「メールによる会員の皆様への行事等のご案内」を開始することとなりました。つきましては、メンバーングストへの登録を希望される方は次の要領で「登録」をお願いいたします。

① 登録用アドレス

memberlist_regist@y-suikouka

i.sakura.ne.jp

② 登録内容

(例)

(1) 氏名…海尾護

(2) 会員番号…0174183

(3) メールアドレス

umiomamor@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます。

何か不明な点がございましたら、登録アドレスへご一報ください。以上、よろしくお願いたします。

(檜森 晃治 幹事 記)

叙勲受章者(春の叙勲)

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

瑞宝中綬章 村上 同

瑞宝小綬章 石井 健之

河村 雅美

本多 宏隆

(一瀬 良文 事務局長 記)

訃報

4月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔

やみ申し上げます。(敬称略)

川村文子 令和元年5月24日

山本 誠 令和元年5月24日

坂田秀雄 令和元年5月22日

(一瀬 良文 事務局長 記)

新(編)入会員

31年3月〜令和元年9月

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。

(敬称略)

編入

速水 裕(有志) 鈴木 千春

(有志)

入会

村田 直哉(有志) 古澤 裕子

(有志) 増田 忍(生徒35)

新井 優子(有志) 山本 昌行

(部内幹候25) 岩崎 正巳(横

教曹候9)山下 万喜(幹候34)

清野 賢一(飛幹候40) 野川

邦友(有志) 野川 久美子(有

志) 布川 祥子(有志) 村上

智江(有志) 奥村 直広(有志)

田村 真悟(有志) 刈谷 学(有

志) 川原 梅三郎(幹候37)

坂口 龍一(有志) 桑原 正明

(幹候39) 垣見 祐二(有志)

大野 忠之(有志) 福井 祐子

(有志) 前久保 一彦(曹候7)

細矢 舞(有志) 田村 政明(有

志) 谷田貝 義幸(有志) 岩佐

啓一(横教232) 高木 淳(有

志) 追川 浩(有志) 松岡 宏

(有志) 中島 一浩(有志)

羽田 圭子(有志) 中田 守(有

志) 丹羽 秀雄(有志) 灘尾

孝(部内幹候30) 杉山 文俊(幹

候40) 小林 弘樹(有志)

(桂 眞彦 幹事 記)

【編集後記】

ラグビーワールドカップは、盛り上がり、感動しました。開催国、日本で同時に「国際防衛ラグビー競技会」が開催されていたことはご存知でしょうか。日本(自衛隊)チームは、9月16日(月)、習志野においてフランス国防軍チームと対戦し、惜しくも9対16で負けてしまいました。優勝は、フィジー共和国ラグビーチームでした。

(編集担当 石井)

